

## 平成 15 年度松くい虫防除薬剤空中散布に伴う 影響調査について（県行政検査）

### 理化学試験室

平成 15 年度における松くい虫防除薬剤空中散布事業は、薬剤としてフェニトロチオン（以下ME P）を使用し、前期（6月2日～3日）、後期（6月25日～27日）の2回実施された。

そこで当所は、環境調査として北条市、伊予市、久万町及び美川村における水源となる河川水、北条市及び伊予市における大気中の浮遊量と落下量について分析を担当した。

薬剤の捕集法として、大気中の薬剤浮遊量は、固体吸収体としてグリセリンをコーティングしたフロリジルを、落下量は、グリセリンをコーティングした風乾ろ紙を使用した。

調査結果は、次のとおりであった。

#### 1 河川水の薬剤濃度

北条市（2地点）、伊予市（3地点）、久万町（2地点）及び美川村（1地点）の8地点から前後期の散布前後における河川水33検体を分析し、その結果、前期では、散布後の3検体、後期では、散布後の1検体から使用薬剤ME Pを検出した。そのうち前期の散布後1地点（1検体溜り水）では指針値を超過して検出されたが、同一地点の流水を採水した検体では指針値を下回った。

（検出限界：0.20  $\mu\text{g}/\text{l}$ ）

#### 2 大気中の浮遊量

北条市、伊予市の2地点において前期、後期の散布前日、当日、3日後、7日後の4回散布薬剤を捕集し、経時変化について調査した32検体の分析結果は、後期の当日2検体から使用薬剤ME Pが検出された。

（検出限界：絶対量0.1  $\mu\text{g}$ ）

#### 3 落下量

北条市（3地点）、伊予市（3地点）の6地点において前期、後期の散布前日、当日、3日後、7日後の4回散布薬剤を捕集し、経時変化について調査した51検体の分析結果は、前期の当日2検体、7日後1検体、後期の当日4検体から使用薬剤ME Pが検出された。

（検出限界：総落下量2.0  $\mu\text{g}/\text{m}^2$ ）